

事業実績 和紙を未来へ繋ぐ活動

(1) 地域と連携した三桎・トロロアオイの栽培と和紙を活かした工芸開発

① 用地の実地調査と栽培研修会の開催

手漉き和紙に欠かせないトロロアオイの栽培と原料「三桎」の栽培に取り組んだ。トロロアオイの栽培は成功したが、草取りが大変だった。5月30日の種まきから10月11日の収穫まで、草取り、移植・芯止め・摘花をした。(写真①②)



①



②

三桎栽培経験者による挿し木栽培の指導 7月18日 (写真③④)

植樹…令和3年3月13日 11月に収穫したみつまたの苗を仮植え保管していたが、掘り出し水はけのよい斜面に植えた。が小さいので草刈りの時間違えて切らないよう竹を刺して目印にする。(写真⑤)



③



④

参加者の感想 和紙の奥深さが分かりました。伝統を守るため自分も日常で和紙を取り入れたいです。楽しい時間でした。洋紙ばかりの生活の中で和紙に癒されました。世界に一つだけのうちわ、素敵な体験でした。伝統を守る背景を知り貴重な経験でした。



⑤

② 参加型体験プログラムの実施

VOL 1. 和紙を活かす!

・紙漉き体験とうちわ作り 8月8日 第1回 参加者8名 (写真⑥)

・和紙と写真を未来へ残す 8月19日 第2回 参加者10名

写心家 大塚健一朗氏のリモートによる講演。和紙に残したい写真のデータを見てもらい、選定に指導を受けた。三桎で漉いた紙を写真のプリント用紙にした。色調整をした写真は和紙ならではの素晴らしい出来栄えだった。(写真⑦⑧)



⑥



⑦

参加者の感想 古来からある手漉き和紙に現代の写真をプリントし残すことが出来ることは素晴らしいです。リモートの講演でしたがとても面白く学べました。先生のお話から愛を感じ、和紙がずーと残ることを希望します。先生の人生論大変参考になりました。和紙にプリントもっと試してみたいです。和紙へ写真が印刷出来てびっくりです。写真を切り口に視点を変えて和紙を見つめることが出来ました。和紙の将来を見つめ今できることを行動に移したいです。



⑧

VOL 2. 和紙を知る!

・出雲民藝紙の全行程を体験し和紙工芸品作りに挑戦 参加者 7名×3日

(11月14日 出雲市西林木町の元局納三桎栽培農家より三桎をいただき、刈り取った)

11月28日 大型蒸し器「こしき」で原木を蒸し皮剥ぎ。空き時間を利用して和紙工芸に挑戦。多色の紙繊維を桁枠に流し込み箱ライト用の和紙を漉いた。また和紙を三角に折りたたみ三角染めを体験。これらは後日和紙工芸品に使う。(写真⑨⑩)



⑨



⑩

12月12日 三桎の皮を大釜で煮熟、その後1晩かけ流しの地下水で灰汁抜きする。煮熟等時間のかかる作業なので、その間、型染め用レターセットのカードと封筒を漉き、型抜きした渋紙で型染め。三角染めの和紙はこんにやく糊で強化しトレーを制作。(写真⑪⑫)



⑪



⑫

12月13日 みつまたの皮の塵よりを2~3回し、ピーター(叩解機)で叩解し紙料作りを行った。和紙工芸は、箱ライト作りを行い、色とり

どりで美しいライトが出来上がった。午後の本格的流し漉きは何度か練習を重ねて本番に臨んだ。長い3日間だった。報告書にはその時出来た和紙も添付する。地元産の和紙を後世に伝える。(写真⑬⑭)

参加者の感想 紙漉き・箱ライト・和紙トレーや型染め、盛り沢山の体験をさせていただきました。和紙を身近に使っていきたいです。自分の山で撮れた三桮を紙に出来てすごいと思いました。和紙トレーや型染めが楽しかったです。とても貴重な体験でした。火をおこすところから経験でき、紙がどう作られていくか、作られた紙をどう使うか考える機会となりました。トレー作りは糊や下地のことまで真似べ手参考になりました。全行程を体験し、機械漉きに無い技は残してほしいと思いました。今回経験したことを還元するために、自分自身も何か発信できればと思いました。このようなチャンスがあればまた挑戦したいです。和紙工芸は、和紙が自分の生活に入ってきて使えることがうれしかったです。



⑬



⑭

④ 体験プログラム成果冊子作製とホームページで公開

活動記録を随時ホームページで公開した

URL <https://www.handmadewashi.com/>

(2) 出雲民芸紙抄造技術記録と和紙のレシピ製作

② 技術のデータ記録開始(熟練職人) 11月6日

電気情報工学科 准教授 片山優氏と生徒2名により安部紀正(安部栄四郎の孫)の技術記録を撮影した。

身体と漉き道具にモーションキャプチャーを取り付け、漉く時の動きを記録した。(写真⑮)



⑮

③ 和紙製法レシピ本内容記録作業開始

4月から植物の分布調査を行い、昔三桮を栽培していた地区を調査した。高齢者に聞き取り調査を行う。郷土の歴史に詳しい方より明治時代の三桮栽培の記録の情報もあり、中でも調査中、新たに栽培について経験者を見つけることが出来た。今後の指導も依頼し心強く思った。

八雲町星上山山頂で可って栽培を経験していた石倉氏宅。山深いところが多く斜面の杉の間に植えられていた。石垣は冬には三桮を蒸す釜土として利用していた。(写真⑯)



⑯

④ 技術記録データ成果報告書作成

…松江工業高等専門学校提出資料はデータで提出

⑤ 和紙レシピ本内容成果報告作成

…三桮分布調査・出雲民芸紙道具測定図データ・測定図に基付き道具の写真40点
4・5はデータで提出

(3) 和紙生産者、用具生産者アンケート調査

2021年に行う生産者アンケート調査に向けて準備、アンケートの設問設定した。

前回の掴みきれない生産者情報を集めるため、全国に向け調査協力の依頼をする予定である。今回はコロナ禍の中で、調査が出来なかったが高知県のいの町にある和紙生産用具技術保存会と連携が取れた。次回のアンケートに参加し、和紙生産者と情報を共有する。

12月2日高知県のいの町

全国手漉き和紙用具製作技術保存会事務局と検討会議を行った。